

茨中・茨高の良いところは、「特殊なカリキュラム」「頼りになる先生方」の二点

Y. K.

早稲田大学 教育学部 国語国文学科 進学
バンコク日本人学校 卒業

受験にあたって、とにかく英語が大事だな、ということを痛感しました。英語からは逃げられません。

単語や文法問題など、自分でこつこつやるしかないものは通学時間を使ってまめに勉強し、長文読解や英作文など解説が必要なものについては課外授業をとっていました。また、毎年英検を受験し、自分の英語能力の目安としていました。全体的には、授業の予習復習（授業進度が早めなのでとても重要）を中心に自宅で学習しつつ、苦手科目・もっと伸ばしたい科目については課外授業をとることで勉強時間を確保していました。

中学校での思い出は、体育祭で使用する旗の制作に関わらせてもらったことです。入学時、先輩方が作成した旗が廊下に飾られているのを見て、その完成度に感動して以来、旗の製作にはずっと憧れていました。みんなで一枚の大きな絵を完成させる、という初めての作業は、感覚ではうまく行かないところも多く難航しましたが、とても貴重な体験になりました。高校での一番の思い出は、弁論大会に出たことです。もともと人前に立つのが極端に苦手で、それを克服したいという気持ちから思い切って参加しました。大会当日はお腹が痛くなるほど緊張しましたが、練習の甲斐あってか、壇上では楽しく話すことができました。最優秀賞をいただけたことは大きな自信になりました。発表後に感想を言いに来てくれた人もいて、そこから新しくできた交友関係もありました。非常に実りの多い経験になったと思います。

私の思う茨中・茨高一貫教育の良いところは、「特殊なカリキュラム」「頼りになる先生方」の二点です。次年度の授業内容を先取りする中高一貫独自のカリキュラムは、はじめのうちこそ授業についていくのが大変でしたが、特に高校にあがってからそのメリットを強く実感しました。赤本にとりかかる時期が早かったため、余裕を持って受験勉強のスタートをきることができました。受験期に入ってから、何よりも心の支えになってくれたのが高校の先生方でした。進路や勉強法について相談に乗っていただいたほか、精神面でも大きくサポートしていただきました。ある意味「高校の先生というより大学の先生っぽい」という印象があり、先生方の専門分野に関する豊富な知識と興味は、私自身の勉強のモチベーションにも繋がりました。

大学進学後は、教員免許の取得を目指しつつ、大好きな日本文学について研究していきたいと考えています。大学での生活がどんなものになるかは未知数ですが、勉強を楽しむ気持ちを忘れずに頑張ります。将来は、高校の国語の先生になりたいと思っています。先生として茨城高校に戻ってこることができたら楽しそうです。